

絆 県政レポート

KIZUNA

【平成28年1月号】

市政と県政の
強固な架け橋



発行：芥川かおる事務所
座間市緑ヶ丘1-1-35(2F)
046-244-0281 046-244-0481

～新年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます～

昨年の統一地方選挙では、多くの市民の皆様より多大なるご支援を賜り初当選を果たさせていただきました。お陰様で6月の一般質問、10月には予算委員会にて、発言の場を与えて頂き、次に繋がる質問が出来たと思っております。さて昨年を振り返りますと国内外で様々な出来事がありました。明るいニュースとしては、日本で開催される、ラグビーワールドカップ2019に先駆け、昨年のイングランド大会において、日本代表が歴史的な3勝を上げ、惜しくも予選敗退となりましたが、国民に大きな勇気とたくさんの感動を与えてくれました。また、英国で開催された決勝戦を視察した黒岩知事は、「ワールドカップ2019年決勝戦が横浜で行われることに、責任重大、万全の態勢で準備したいとしていて、大会開催に向けて決意を新たに述べました。一方、フランスパリを中心に発生した、過激派組織によるテロ事件では、日本人2人を含み世界各国、多くの方が犠牲となり、世界中がテロに脅かされました。また、国内各地では東日本大震災以降、自然災害に見舞われるケースが増えている中、9月の北関東東北豪雨により、茨城県常総市を中心に、多くの方が犠牲となりました。更に日本列島の火山活動が活発化し、本県の箱根山大涌谷周辺ではごく小規模な噴火が発生し、一時、噴火警戒レベル3となり、観光客が激減、箱根町を中心とする地元の観光産業が大打撃を受けました。現在は噴火警戒レベル1(平常)となり、一日も早い、もとの活気ある観光地箱根の姿を取り戻せることを祈っております。今年2016年は、明るい出来事の多い、県民誰もが心も明るくなり、笑顔が絶えない1年であってほしいです。私自身も2年目を迎える当たり、現在、市政、県政の抱えている、課題、問題等を解決するため、スピード感を持って、現場主義の姿勢は変わらず堅持し、国・県・市の『架け橋』として、今年一年もしっかりと働いてまいります。

～火山活動対応ロボットについて～

◎9月補正予算案として提案された火山活動対応ロボット開発促進事業では、火山活動対応のために早急に必要とされるロボットとして、三つの開発プロジェクトを選定し開発を進める経緯は。

◇答弁 大涌谷周辺の火山活動が活発化し、県は現場に必要なロボットを早急に開発するためプロジェクトチームを立ち上げ地元関係者等のニーズを聴取したところ、温泉関連施設のメンテナンス等を行う作業員の安全確保が急務であると認識した。そこで大涌谷の状況把握を目的とし、火山活動対応ドローン、地上走行車の開発、地すべり警報システムの開発を行う、プロジェクトをそれぞれ選定した。

◎それでは知事に伺います。今回は火山活動対応ロボットの開発であります。県内外では、洪水や地震など、様々な災害リスクを抱えている。こうした取り組みを今回の火山活動対応だけでなく、他の自然災害にも活用すべきと考える。今後どのような展開を考えているのか。

◇答弁 さがみロボット産業特区という中で、生活支援ロボットの開発を進めていることもあり、その中の生活支援ロボットとは、自然災害、災害対応ロボットもそのメニューに入っている。今回大涌谷周辺の火山活動が活発化したこともあり、ロボットが出来ないものか、検討を始めたわけです。今回のプロジェクトで開発するロボットは、火山活動で発生する高熱やガスなどに耐えられるように、高い断熱性や防水・粉じん機能などを有することになり、こうした性能や機能は、地震による火災や洪水による水害の現場などで使用されるロボットにも活用できます。また、さがみロボット産業特区では、現在、災害対応ロボットとしまして、瓦礫に埋もれた被災者を検索するロボットなどの開発も進めています。今後は様々な災害に対応するロボットの開発に、火山活動対応ロボットの開発で得られた、技術やノウハウ、これを、神奈川版オープンイノベーションを通じて積極的に活用してまいります。そして、優れた機能を持つ信頼性の高い災害対応ロボットをさがみから生み出し、全国に発信してまいります。



初めての
予算委員会

～災害に強いかながわを目指す～

◎私の地元座間市では、10月6日に温泉地学研究所里村所長をお招きし、防災講演会が開催されました。また、来年1月23日には4回目となる『座間市いっせい防災行動訓練 シェイクアウトプラス1 2016 in ZAMA』のキックオフ宣言を遠藤市長が行いました。東日本大震災以降、国内では防災意識が高まる中、県内市町村でも様々な防災・減殺の取り組みが行われていて、災害に強い神奈川を目指す意味でも、火山活動対応ロボットの開発をいち早く進めて下さい。また、本県にはさがみロボット産業特区もあり、7月に策定されたかながわブランドデザイン第2期実施計画にも『ロボットと共生する社会の実現』とうたわれております。知事からも様々な災害対応ロボットの開発を進めていくとの答弁がありました。ぜひ、神奈川から全国に発信していただくことを強く要望します。

災害対応マルチ ロボットシステム



(県立神奈川総合
産業高校で開催された
ロボットフェスタにて)



めざせ!

《健康寿命》日本一!

して、『イキイキ! 大また歩き』『チャレンジ! 階段のぼり』『スッキリ! スキマストレッチ』と、この運動なら時間や機会が少ない方でも、無理なくできるとされており。また、チャレンジデーへの参加促進も行っており、チャレンジデーとは、毎年5月の最終水曜日に人口規模がほぼ同じ自治体同士が午前0時から午後9時までの間に15分以上継続して、何らかの運動やス



ターゲットバードゴルフで楽しく運動が

スポーツをした方の参加率を競い合う全国的なイベントです。昨年は座間市でも初参加いたしました。私としても、今後県民が積極的に運動ができるよう、グラウンドや施設など、運動しやすい環境づくりへ、県・市行政と連携をしながら進めてまいります。是非、健康増進のため、無理のない運動から始め、いつまでも健康で楽しい人生をおくりましょう。



ロボットアーム型治療台-位置決め時間の短縮で患者及び医療スタッフの負担を低減できる

県立がんセンターにて 《重粒子線治療》スタート!

『i-ROCK』とは、神奈川県重粒子線治療施設の略称です。重粒子線治療は、従来の放射線治療では効果の上がりにくいがんへの治療効果が期待され、かつ副作用が少ないとされる放射線治療であります。この治療法とは、炭素イオンを光の速さのおよそ70%まで加速した重粒子線を体の奥のがん細胞に照射する治療法です。特徴は、体の深いところに

あるがんピンポイントで照射するため、周りの正常な細胞を傷つけにくく副作用が少ないとされ、がんを殺傷する能力が強いため、今までの放射線治療が効きにくかった肉腫などの難治性のがんにも有効とされています。この治療の対象となるがんは、脳腫瘍、頭頸部がん、食道がん、肺がん、肝臓がん、すい臓がん、前立腺がん、子宮がん、直腸がん、骨軟部がん。対象とならないがんとしては、広範な移転があるがん、白血病などの血液がん、過去に放射線治療を受けている同じ部位のがんとなっています。重粒子線治療は、先進医療の位置づけのため保険適用外となっており、高額な医療費がかかることから、県が治療費350万円の一割(35万円)を補助し、また、県民が治療費を金融機関から借りた場合の利子を助成する考えを明らかにし、早ければ16年度予算にも盛り込まれる見通しとなりましたが、今後も更なる患者さんの負担軽減に努めてまいります。



《手話》を学ぼう

鳥取県で開催されました。全国高校生手話パフォーマンス甲子園にて。



神奈川県では、平成26年12月25日に県議会において議員提案により、『神奈川県手話言語条例』を制定しました。同様の条例は、2013年に10月8日に鳥取県で成立(全国初)し、都道府県としては、全国2番目であります。県では、平成27年4月の施行に伴い『手話の普及等に関する計画』を策定することとし、協議会を立ち上げ、4回の協議を重ね、県民の方からの意見を踏まえ、概ね平成28年3月に計画を策定することとあります。また、昨年の9月22日には、鳥取県米子市で、高校生が手話の表現力を歌やダンスで競う、第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園が開催されました。当日は、秋篠宮家の次女佳子さまが開会式のあいさつを手話で披露されました。神奈川県からも二俣川看護福祉学校と平塚湘南、鹿島学園、神奈川工業の3校合同での2チームが出場しました。私も先輩議員に声を掛けていただき、会場で手話パフォーマンスを見させていただきましたが、出場した高校生から多くの感動をいただきました。現在、県議会では手話講師の先生をお招きし、定期的に手話講習会行っております。今後も手話の普及に努めてまいります。



《新春の集い》ご案内

- ◆ 平成28年2月7日(日)
- ◇ 鈴鹿明神社 参集殿
- ◆ 午後2時より
- ◇ 会費:2,000円



お問い合わせ:046-244-0281

～渡慶次 道哉(とけいじ みちや) 会長よりごあいさつ～

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって穏やかなお正月を迎えられたことと存じます。芥川県議が後顧の憂いがないよう、政治活動に打ち込めるよう強固な後援会組織づくりを目指していきたく思います。本年も皆さま方のご指導、ご協力をお願い申し上げます。